

音更町教育支援センターを活用した居場所づくりを通じた支援

《 概要 》

- 本町における令和4年度の不登校児童生徒数は、小学校50名、中学校133名である。
- 本町では平成11年度から適応指導教室（ふれあい教室）を設置し、令和3年10月からふれあい柳町教室「ほっと」を分室として設置したことにより、個別や小集団での相談・指導等児童生徒のニーズに応じた支援を行っている。
- 令和4年度の受入状況は、40名となっている。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性

- 児童生徒が好きな活動へ自主的に取組むことができる指導の内容の充実

- 学校や家庭、関係機関との連携を図った指導方針の共有

相談・支援、取組等の状況

- ・カウンセリングにより、児童生徒一人一人の問題を的確に把握するとともに、当該児童生徒に自己理解を深めさせ、精神的な解放と自立を促し集団生活への適応を図った。
- ・教科学習及び工作・絵画・音楽・読書等に対して、当該児童生徒が自分の立てた計画に基づいて取り組むことにより自立を促した。
- ・児童生徒の実態に即して、グループでのゲームや体育的な活動、勤労生産的な活動等、多様な活動を行うことにより、心の解放を図るとともに対人関係能力の育成を図った。
- ・廃校となった小学校の校舎を活用しており、旧職員室を共通スペースとして、児童生徒が協働的に学習や活動を行うことができる大きなテーブルを設置するとともに、旧校長室や旧木工室を児童生徒が心を落ち着かせることができる個室として利用した。
- ・不登校傾向にある児童生徒を対象に、自宅から学習や教育相談に参加できる機会を複数回、オンライン上で設定することにより、学校やフリースクール、教育支援センターなど、いずれの場所ともつながりが少ない児童生徒を支援するための取組の充実に図った。
- ・在籍校への訪問や学級担任との協議、児童生徒の活動の所見などについての月例報告などにより教育支援センターと学校の情報共有を図り、社会的自立に向けた指導方針の共有や交流を図った。
- ・家庭訪問や来訪面談及び、保護者へのオンライン相談会の定期的な実施により、教育支援センターと家庭の情報を共有し、不登校解消に向けた方策について連携を図った。

《 取組の成果 》

- 教育支援センターにおける指導や、相談員との連携により、段階的に登校へつながるケースが見られた。
- インターネット環境を整備したことにより、児童生徒が学校と同じ環境でタブレットを使用したり、リモートで授業に参加したりできるようになった。

多様化するニーズに応じた居場所と学習に向けた取組

《 概要 》

- 在籍児童生徒数は25名である。本年度は学校復帰した児童生徒が4名、登校と通所の併用児童生徒が2名。在籍児童生徒については、町の子育て支援課等と情報共有を図っている。
- 本町では平成10年度から適応指導教室（令和3年度より教育支援センターに変更）を設置し、基本的な生活習慣や学習、集団活動等に対する支援を行うとともに、一人一人の状態やニーズに応じた支援、相談活動を行っている。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性

- 多様化するニーズへのより充実した対応
- ICTの活用
- 安心して、心を落ち着かせることができる環境設営
- 広域的利用

相談・支援、取組等の状況

- ・令和4年度より、学校法人国際学園へ運営を委託し、学習プログラムや教育相談体制の充実等、個々の児童生徒が抱えるニーズに対して専門的な対応を行った。
- ・教育支援センター内でインターネット環境を整備したことにより、1人1台端末を使用し、学校のオンライン授業への参加、AIドリルの学習、チャットによる学級担任とのやり取りなどを行った。
- ・友だちと共同作業や会話ができる環境を整えると同時に、教育支援センター内にパーティションで仕切られた個別ブースを10か所設置し、児童生徒が安心して、心を落ち着かせることができる環境設営を行った。
- ・令和5年度より近隣の町村において、教育支援センターが未設置である自治体と協働し、他町村からの児童生徒の受け入れを開始した。



【活動環境の整備】



【休憩スペース】



【個別ブース】

《 取組の成果 》

- 児童生徒が安心して過ごすことができ、多様な学びの場として利用できるよう環境を整備したことにより、通所する児童生徒数が増加傾向にある。
- インターネット環境を整備するとともに、1人1台端末を活用し、児童生徒のニーズに応じた対応の充実を図ったことにより、探究的な学びや基礎学力の定着に係る学習を実施することができた。

子どものニーズに応じた足寄町学校適応指導教室「いきいきクラブ」

《概要》

- 平成11年度より適応指導教室を設置し、不登校の児童生徒の心の中の学校に対する拒否感の払拭を目的とした支援を行っている。
- 平成18年度から令和元年度までは、適応指導教室における児童生徒の受け入れはなかったが、学校と連携を図りながら不登校児童生徒や保護者との面談等を行っていた。
- 不登校児童生徒の個々の状態に応じた相談・支援を行うとともに、基本的な生活習慣や学習、集団活動についての指導・援助を行い、自立や学校復帰を目指している。

《相談・支援等の実際》

目標・方向性

- 指導教室専任指導員と児童生徒間の信頼関係を築く中で、生活の立て直しを図り、心の開放を促す。
- 家庭や在籍校・関係機関等との連携を図りながら、学校復帰への意欲が高まるよう指導・援助に努める。

相談・支援、取組等の状況

- ・「ほめる・励ます」を基本に、児童生徒の自己有用感が高まる声掛けなどを行い、児童生徒の気持ちが開放される雰囲気づくりに努め、指導に当たった。
- ・指導教室専任指導員が児童生徒の悩みを傾聴し、共に考えながら解消を図った。
- ・学校への復帰に向けた自信の回復を目指して、基礎・基本の定着を図る指導を行った。
- ・個々のもつ特性を見極めながら、その伸長を図るため、積極的に手立ての検証改善を行った。
- ・児童生徒との対話を通じて学校教育の大切さ、集団における人間関係の必要性についての理解を図った。
- ・学校との連携を密にし、児童生徒の現状について共通理解を図った。
- ・不登校児童生徒が積極的に利用することができるよう、関係機関の協力を得ながら周知を図った。
- ・保護者の協力を得ながら生活習慣の改善を図っている。
- ・令和5年度より、足寄町学校適応指導教室を足寄町生涯学習館の一室に移転して常設し、黒板や学習機を設置するなど、児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができる環境を整えた。

《取組の成果》

- 定期的に学校を訪問し、教職員と打合せをすることにより、不登校児童生徒及び不登校傾向のある児童生徒についての支援体制の確認をし、適切な対応を行うことができた。
- 指導教室専任指導員が学校に訪問して不登校児童生徒及びその保護者と教育相談を行うことにより、家庭での過ごし方や学習状況などの現状について把握し、必要に応じて学校と連携して支援を行うことができた。
- 不登校児童生徒及びその保護者に適応指導教室についての説明を行うことにより、学習機会の確保に向けて考える機会をつくることができた。

学校との連携を軸にした児童生徒支援

《 概要 》

- 在籍児童生徒数は36名である。起立性調節障害の児童生徒や、受動的でコミュニケーション能力に課題意識をもち、友人関係等に悩みのある児童生徒が多い。
- 学校との連携を軸に、学習活動はもとより、様々な体験活動と軽運動を通して、児童生徒に自己有用感をもたせることを目的としている。
- 研修会への参加による指導員のICT活用に係る資質能力の向上を図るとともに、オンラインを活用した相談支援や学習支援を行う環境整備を行った。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性

- 学校や保護者との連携による学習支援
- 様々な体験活動による自己有用感の醸成
- オンラインによる個別の学習機会等の充実

相談・支援、取組等の状況

- ・ 中学校の定期テスト等を、教育支援センター内で受け、終了後に指導員が学校に届け、採点できる体制を整えることにより、生徒の学習状況を的確に把握できるよう配慮した。
- ・ 学校と児童生徒の出席状況や、教育支援センターでの様子等を電子メールで情報共有した。
- ・ 安心できる環境づくりのため、不登校の親の会等と連携し、不登校の児童生徒の要望等を取り入れ、カーペットや壁紙の色を変更するなど、環境整備を進めた。
- ・ 市内の施設（図書館、美術館、動物園、児童館、畜産大学、民間企業等）を活用した活動を行うことにより、児童生徒の自己選択・自己決定を促すとともに、多様な体験活動を通じて、他の児童生徒とのつながりの中で自己有用感を醸成した。
- ・ 帯広市のICT支援員による研修会等に積極的に参加することにより、指導員のICT活用に係る資質能力を高めるとともに、スクールカウンセラー等の専門家や学校とオンラインでつないだ相談支援及び学習支援の充実に係る教育支援センター内の環境整備を推進した。

《 取組の成果 》

- 学校や保護者との連携を密にし、児童生徒の思いや実態に寄り添った指導・支援を進めていけるよう心がけ、安心して通うことができる環境を提供することができた。
- 地域の教育資源を生かした体験活動を通して、児童生徒の興味の幅を広げ、将来の職業選択等について熟考させるとともに、日常の学習意欲の向上に役立てることができた。
- オンラインでの相談支援や学習支援の充実に図ったことにより、不登校児童生徒へ対するアプローチの方法が広がり、個々の児童生徒の状況に応じた支援が可能となった。